

人間 - 生活環境系学会
屋外熱環境デザイン研究委員会
第4回研究交流会報告

屋外熱環境デザイン研究委員会の活動の一環として、宇野勇治委員の主催で第4回研究交流会を下記の要領で実施した。

趣旨

屋外の熱環境をデザインする上で緑化の有り様は重要な要素である。今回の研究交流会では、庭園デザインにともなう植生や事例、風土を背景に形成された集落景観、維持管理に関わる居住者と緑化の関わり、都市緑化に向けての方策、環境に配慮した先進的な取り組み事例など各分野における知見を報告いただき、これからの「緑化と屋外熱環境デザイン」について議論を深めることを目的として開催した。

日時：2007年12月21日（金）14時～17時30分

会場：名城大学 タワー75 10階 1002会議室

参加人数：20名（一般14名、学生6名）

講演

1)日本の植生と庭園デザイン 田井洋子
（景観設計室 タブラ・ラサ 造園デザイナー）

壁面緑化に用いた特殊緑化手法や名古屋市内の高層ビルの公開空地や屋上庭園の緑化デザインなど都市における緑化事例デザイン事例を紹介いただいた。続いて日本の庭園デザインを振り返り、鎌倉から江戸期において、市中の山居といわれる都市の路地や茶庭に取り入れられた植生内容に触れ、当時の庭園は常緑の針葉樹、広葉樹が主であり、深山における隠遁所の趣に価値を見出していた様子を説明いただいた。明治に至っては雑木の庭に価値が見出され、武蔵野の雑木林などをモデルとしながら造園した庭などを紹介いただいた。

2)環境共生型の住まいと集落デザイン -山陰地域の事例調査- 兼子朋也（米子高専）

島根県隠岐諸島の集落における宅地防風林としての「カキヤネ」、板の塀「イタカベ」など冬季の季節風や台風に対応するため自然物を活用した対策と気候景観と環境調節手法について紹介をいただいた。

続いて鳥取県の環境共生型集合住宅の住環境についての報告では、雑木林、水路、パーゴラなど屋外

空間の環境的な豊かさが住民アンケート結果にも表れ、自然を身近に感じる、健康的、省エネルギーといった回答が高かったとのことである。

3)集住空間における居住者参加型緑化デザイン

小杉 学（愛知産業大学）

コーポラティブ住宅「ユークート」における居住者参加型の緑化デザインについてお話しいただいた。居住者参加で建設された48戸のU字型の集合住宅では中庭に樹木が繁り、取り囲むバルコニー面には下から上までヘデラ（蔓植物）のカーテンが覆っているとのこと。植物の世話は住民のリーダーを中心に行われ、子どもたちは花や虫で楽しそうに遊ぶ様子が見られた。居住者たちが自ら緑を守っていく楽しさと、建設後25年を経て住民が高齢化して管理が難しくなってきたこれからの課題などが紹介された。

また、昭和30年代建設の公団武蔵野緑町団地の建て替え事業における、緑を守りながらの建て替えプロセスについても紹介された。

4)薄層屋上緑化ユニットの熱的性能に関する実験的研究 垣鏑 直（名城大学）

公団が開発した屋上緑化ユニットを対象に断熱性能算定に求められる原単位の導出を目的とした実験結果について紹介いただいた。水分蒸発量の測定から植栽を有するユニットでは植栽と土壌からの蒸発があり、夏季は多く、冬季は少ないなど屋上緑化技術に関わる様々な知見を紹介いただいた。

フリーディスカッション

司会：宇野勇治（愛知産業大学）

講演後に、参加者全員によるフリーディスカッションが行われた。日本の気候景観やこれからの緑化の在り方について活発な意見交換が行われた。



写真 懇親会での集合写真

報告：宇野勇治